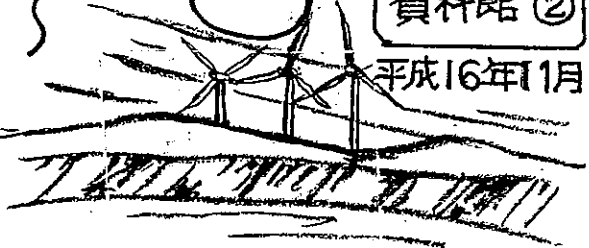


明治末期や大火前の写真

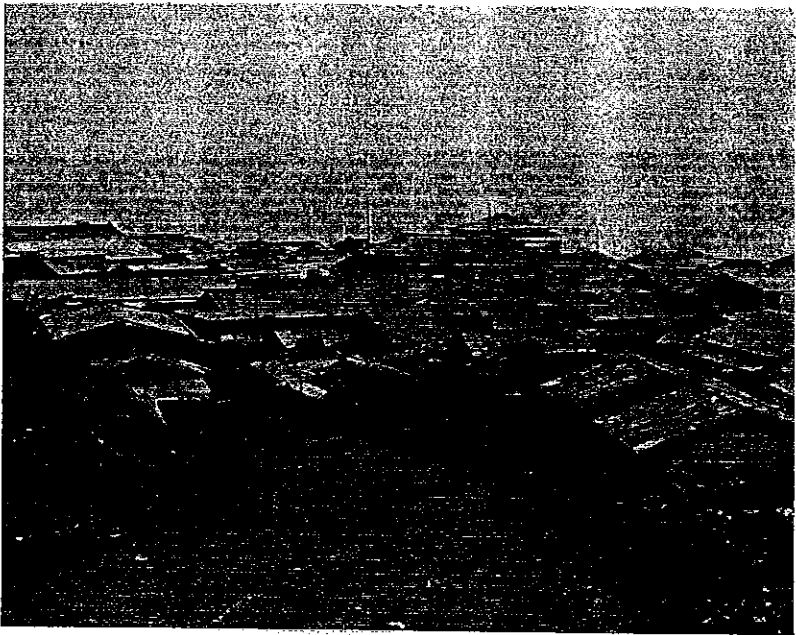
「吉前の下町風景など」

「函館の関さんがり」



函館在住の元中学校校長、関尚彦さん(仮名)から吉前下町の古い写真が町教委へ寄贈された。

昨年四月、函館市の関尚彦様より、父が吉前で昭和の初期に教師をしており、誰か知っている方が居りませんか、公民館へ問い合わせがあり、偶々郷土史研究会の総会の席で、その話が出て、私が昭和七年旧吉前小学校に入學した時は、先生は在籍しており、関一男先生の家は菓子店を営んでおり、先生には習った事はなすが、昭和九年頃に転出したまづに記憶していること云々と、その旨知らせてやうと下さると、関様と文通するようになり、関様は実は関家のルーツを調べていると云う。



関様は下町全盛の頃旅館をしており、当時の旅館を知っている方、先生の教子等を探して何回か連絡を取り合っている内、上記掲載の大正十三年の大火前の吉前市街の写真、その後、更に大正末期から昭和初期にかけての卒業写真や明治末期の吉前消防団の結成の頃の団員の写真と、吉前町にとっては歴史的貴重な写真の提供を戴きました。本当に有難うございました。(鎌田信夫記)

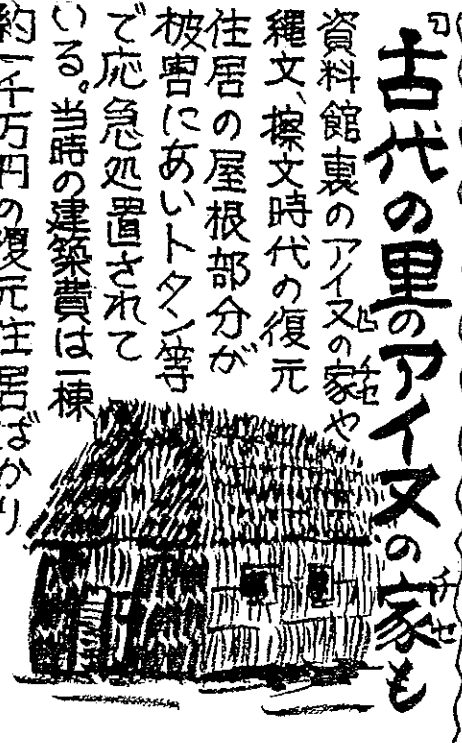
右の写真は現三笠市の吉岡賢二氏という写真師が神社の坂から撮影し、関旅館に宿泊した時、関さんへの祖母キミさんへ手渡されたものである。

なお鎌田信夫さんにより、この写真から料亭や商店、劇場、旅館などが確認された。関尚彦様ご家族も七月十七日に吉前を訪問され、感慨深げに関係各地を巡った。



田家番屋の屋根破損 被害額は1千万円

現存するニシン番屋では国内最北端に位置し、北海道遺産に登録されている田家番屋(下町)の屋根が九月八日の台風18号で破損し、被害額は約一千万円に上るといふ。



古代の里のアイヌの家

資料館裏のアイヌの家や縄文、擦文時代の復元住居の屋根部分が被害にあいトタン等で応急処置されている。当時の建築費は二棟約一千万円の復元住居ばかりカヤなどはなかなか手に入るのが容易でなく修復に大変だといふことである。

史跡めぐり

古丹別小の4年生16人 はきはきと質問も。

十月二十六日、古丹別小学校の四年生十六人が郷土史研究会の案内で郷土資料館や陣屋の跡、水田発祥の地、寺子屋、煙上屋跡、戸長役場跡などをスクールバスで移動しながら吉前の歴史を勉強した。まづ、資料館では大きな熊とトドのはく製にびっくり、館内の展示品を熱心に見学した。このあとそれぞれ史跡の説明を受け、うなづきながらメモを取っていた。最後の質問の時間では資料館の入館者数や展示品の数、吉前に人が住んだ年代、人口が二番多かった時期など活発に質問が出され、一つ一つ丁寧に説明を聞き入っていた。なお、吉前小学校四年生も十月二十日に実施している。

郷土資料館から

郷土資料館を訪れる人は、毎年の傾向で地元の人より町外の人が多いですね。最近では旅行ガイドなどで若者のツアーや外国人が目立ちますね。また団体では老人クラブや施設、教育関係者も見られます。観光バスも東京、愛知、埼玉、群馬、山口、福島などからも、町内の通っている方が、8月16日から22日まで交替で訪れてくれました。今年10月で閉館となりますが来年は町内の人や町外のご親戚の方や友人知人を誘って多くさんの人が「ふるさと資料館」へ足を運んでいただきたいと今から期待しております。(展示資料も随時入れ替えをしております。)